

2年3組 道徳科学習指導案

授業者 余川 紀子

授業② 2年3組教室

1 主題名 よいと思うことを 内容項目 A善悪の判断、自律、自由と責任

2 教材名と出典 「わすれられない えがお」(新しい どうとく2年)

3 ねらいとする道徳的価値について

本指導内容は、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動すること、自由を大切にすると共に、それに伴う自律性や責任を自覚することに関するものである。この時期の児童は、集団生活において、よいと思ったことでも、ものおじしてできないということがある。反対に、自分がしたいことを、周囲に気配りできずにしてしまうこともある。こうした実態を踏まえて、正しいと思ったことは進んで行おうとする心情を育てていきたい。

4 重点的に育成を図る資質・能力とその手立て

聞く力	①反応しながら聞いている。 ②自分の考えと比べながら聞いている。 ③相手が伝えたいことを理解しながら聞いている。
課題を発見する力	①地域や身の回りの生活から困っていることや解決したいことを見つけている。 ②理想とする姿や様子を思い描いている。 ③理想を実現するために達成しなければならないことを考えている。 ④理想を実現するための具体的な方法を考えている。

5 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、暑い夏の日、主人公の「わたし」は母と外出し、混んだバスに乗る。バスが急に止まったとき、「わたし」は隣のおばさんの足を踏んでしまう。おばさんは、むっとしていて怖そうな雰囲気、「わたし」は、「ごめんなさい。」の一言がなかなか言えない。しかし、母の「わざとじゃなくても、悪いことをしてしまったら、ちゃんと謝るのよ。」という言葉思い出した「わたし」は、思い切って謝る。すると、おばさんの顔がほころび笑顔になるという話である。児童にとって、相手の気持ちを理解しながら、主人公(わたし)の立場になって考えられる教材である。

そこで、なかなか言い出すことができない「わたし」の葛藤を考えることを通して、よいと思ったことを進んで行おうとする心情を育てたい。

(2) 児童観

児童はこれまでに、「黄色いベンチ」という教材において、「規則の尊重」についての学習をしてきた。授業の中で、みんなで使う場所やものを使うときは、みんなの迷惑にならないように気をつけることの大切さを学んだ。また、「おれたものさし」という教材において、「善悪の判断、自律、自由と責任」についての学習をしてきた。不正に対して勇気をもって指摘したり、注意したりすることの大切さに目を向けて、正しいと思った行動をしようとする力を育んできた。教室でも、誰かの迷惑になりそうな行為は自ら我慢したり、もし迷惑をかけてしまったときには、素直に謝ったりする姿も見られるようになってきた。しかし、まだまだ自己中心性が強く自分の思いを優先してしまい、そのため、みんなに迷惑をかけてしまったり、トラブルになったりすることもある。

そこで、他者や周囲がどうであれ、自らよくない行動を「いけないな」とためらったり、よいことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こしたりして、自分がよいと信じることを、自信をもって行おうとする心の深化を図りたい。

聞く力について、自分の考えをもった後、児童は自由交流を行い、自分の考えを伝えたり、相手の考

えを聞いたりしてきた。しかし、伝えたいという思いが中心で、相手の考えをしっかりと聞いたり、自分の考えと比べて聞いたりすることには至っていない。

課題を発見する力について、児童は前時と本時の学習を比較して、学習課題に気付けるようになってきている。しかし、道徳科では、問題意識をもって課題をとらえ、自分事として自分の日常をふり返ることには至っていない。

（３）指導観

導入では、「よいこと」をキーワードとして提示し、児童が考えるよい行動を挙げさせる。そして、よいと分かっている、行動しようかどうか迷ってしまうことがあり、その理由について考えさせ、本時のねらいとする価値への方向付けを行う。迷うことはだれにでも起こり得る心の葛藤をとらえ、よいと思う行動ができるために大切なことは何かを考えていこうという意欲につなげたい。

展開前段では、教材文を読む前に、あらかじめ感想を求めることを伝えておき、自分が思ったことを発表させる。感想をもとに、「わたし」の気持ちを考えていくことを確認する。その際、少人数での対話の時間を確保し、色や大きさで「わたし」の気持ちを表したハートを提示しながら、「わたし」の迷いを可視化し、自分の考えと比べながら聞けるようにする。また、展開後段では、謝ることができた「わたし」の気持ちを考えさせることで、悩みながらもよい行動へ向かうために必要な心の動きについても価値づけていきたい。

終末では、迷いながらもよい行動をして、すがすがしい気持ちになったりした体験を伝え合う際に、「自分も同じように迷ったんだけど…」と話すことで、たとえできなかったことでも、自信をもって伝えることができると考える。そして、その行動時の気持ちを問うことで、すっきりしたすがすがしい気持ちになれることを確認したり、できずにもやもやした気持ちになり、「つぎは頑張りたい」と決意したりして、今後の生活に生かそうという思いをもたせたい。また、教師の説話の中で、学級の中であったよい行動の紹介を聞き、ふりかえりの視野を広げさせたい。

聞く力について、２つの場面でハートを用いて、ハートの色や大きさの違いやそのようにした理由の違いをお互いに比べながら、聞き合えるようにする。「自分と違うみたいだから、聞いてみたい」「自分と似ているから、聞いてみたい」と、必要感をもって聞き合えるようにしたい。

課題を発見する力について、自分たちの日常をふり返り、「よいことでも、迷ってしまうときがある。迷ったとき、どうする？」と児童に問いかける。そうすることで、理想とする行動がどうしたらできるかを考えていこうという意欲につなげたい。

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

よいと思ったことは、進んで行おうとする心情を育てる。

(2) 学習の展開

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に關する手立て
5	1. 課題をもつ ○「よいこと」にはどんなものがあるかな。 ・挨拶だよ。 ・親切にすることかな。 ・バスで席を譲るといいね。 <「よいこと」でも、迷ってしまうとき、どうする？>	・日常をふり返り、問題意識を高められるようにするために、「よいこと」をキーワードとして提示する。 ・自分事として考えられるようにするために、迷うことは誰にでもあることであり、そんなときどう行動するかを考えることを確認する。
25	2. 教材文を読んで、話し合う ○隣のおばさんの足を踏んでしまったとき、「わたし」はどんなことを思ったのかな。 ・怒っているかな。 ・謝らなくちゃいけない。 ・どうしよう、怖いな。 ○もう一度おばさんの顔を見たとき、「わたし」はどんなことを思ったのかな。 ・どうしよう、やっぱり怖そうだ。 ・謝らないと、嫌な気持ちが心に残ってしまう。 ・今謝れば、気持ちがすっきりするかも。 ◎おばさんの顔がほころんで笑顔になったとき、「わたし」の心の中は、どんなだったのかな。 ・ちゃんと謝れてよかった。 ・おばさんも笑顔になってくれてよかった。 ・正しいことができて、すっきりした。 ・おばさんも私も気持ちがいい。	・「わたし」の気持ちをハートに表すことで、お互いの考えの違いを視覚的に見えるようにする。 ・「わたし」の気持ちのイメージを広げるために、謝ることができた場面の役割演技をして考える。 ★対話の時間を確保し、この場面での「わたし」の気持ちを、ハートを用いて考えを交流させる。 (聞②)
10	3. 自分の生活をふり返る ○「よいこと」をしてよかったことはあるかな。また、そのときどんな気持ちだったかな。 ・他のクラスの教生先生に、挨拶しようか迷ったけれど、思い切って挨拶したら、すっきりした気持ちになったよ。 ・バスで席を譲ろうかどうしようかと思ったけれど、できなくてもやもやした。次は、譲りたいな。 迷っても、「よいこと」をすると、すっきりしたいい気持ちになるから、勇気を出してやってみる。	・最後の場面のような心の様子が「すがすがしい気持ち」「すっきりした気持ち」であることを押さえる。 ★自分事として考え、自分の経験をもとに話し合えるようにするために、「自分も同じように迷ったことがあるのだけど、…」と話し始めることを提示する。(課③) ◎よいと思ったことをするために大切にしたいことを考えたり、伝え合ったりしている。
5	4. 教師の説話を聞く ・教室にごみが落ちていたら、迷わず拾いたいな。そうすれば、教室も気持ちもすっきりするな。 ・発表しようかどうしようか迷ったら、思い切って発表してみよう。	(ワークシート・発言)